

2018 年度「研究者の横顔」 石本 貴胤先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

医師としてがん患者さんと向き合う中で新たな治療法の必要性を強く感じ研究者を志しました。

2. 助成研究の内容紹介

進行した胃がんにおいて、腹膜播種(がん細胞がお腹の中に散らばること)は現在の治療法ではコントロールが極めて困難な転移です。転移がん細胞の周りに存在するサポーターに注目し、周囲からのサポートを遮断することでがん細胞を死滅させることを目指します。

3. 2の将来に繋がる結果予想・目標

これまでの抗がん剤治療、注目されている免疫療法との併用により治療効果を高めることが期待できます。

4. 全国の RFL 関係者に一言

この度は研究助成に採択いただき誠にありがとうございます。基礎的な研究を積み上げ、新たながん治療法の開発に繋がられるよう努力いたします。